

資源分別収集運搬 処理作業の手引き

令和8年6月

**相模原市環境経済局環境部
資源循環推進課**

資源、プラスチック、ペットボトル及び有害ごみの収集作業は、その多くが道路上で行われることから、車両や自転車、歩行者と接する機会が多く、日常的に危険が伴う作業です。

また、資源物を収集・運搬して中間処理施設に搬入する際にも、施設内において指定された場所に品目ごとに荷降ろしすることから、施設内でも車両の移動や荷降ろし作業に注意が必要です。

このようなことから、安全かつ円滑な収集運搬作業の実施を目的として、「資源分別収集運搬処理作業の手引き」を作成しました。

そこで、収集運搬作業に従事するドライバー及び助手の方は、本手引きを熟読するとともに、定期的に読み返し、常に注意事項を遵守し収集運搬作業に従事されるようお願いします。

なお、収集運搬業務における適正履行の前提条件として、本手引きによるもののほか、貨物自動車運送事業法に基づく運行管理者は、定められた業務を遵守してください。

令和8年6月

相模原市環境経済局環境部資源循環推進課

第1章 作業にあたっての心構え

ー作業にあたっての心構えー

1 全ての作業は「安全第一」

決められた時間内に業務を完了させることを基本としますが、常に「安全第一」を優先して行動します。

2 チームワークを大切に

運転手と助手はしっかりとコミュニケーションを図り、互いに協力して安全な作業に努めます。

3 あわてず あせらず 状況確認

どのような場面でも、落ち着いて安全を確保してから行動します。

運転手は安全運転に専念し、助手は安全確保に専念します。

4 正しい知識、正しい手順

「収集運搬作業の手引き」を遵守し、作業内容・作業手順に関する正しい知識を持ちます。

5 挨拶の励行

挨拶は基本です。市民から声をかけられた時は作業を中断し、丁寧に挨拶をします。

6 報・連・相（ほう・れん・そう）の徹底

事故（加害被害大小を問わず）、市民とのトラブル・遅延・車両故障等の発生時は、速やかに会社・現場責任者・リーダーへ報告・連絡・相談をします。

7 市民の生命と財産を守る

市が行うべき業務に従事する者として、市の職員と同様に市民生活を支え、生命・財産を守ることを使命としていることを認識します。

第2章 作業の準備

作 業 手 順	注 意 事 項
1 作業服等の着用 作業服、安全靴、手袋などを着用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業服等は、会社等からの貸与品を着用すること。 ・ 作業服の上着は、事故防止の観点から、できる限り長袖とすることが好ましいが、夏季においては熱中症予防として、半袖を着用するなど臨機応変に対応すること。 ・ 身だしなみに気をくばること。 ・ 汚れ、破れた作業着は着用しないこと。

	<ul style="list-style-type: none"> ・靴は、安全靴その他滑り及び踏抜きを防ぐ安全なものを使用すること。
2 作業前の確認 運転手は、運行管理者による点呼、アルコールチェック及び運転免許証の確認を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・収集車両を運転する場合は、必ずアルコールチェックを行う。 ・運転免許証の携帯及び有効期限の確認を行う。 ・睡眠不足や体調不良など自己認識のある場合は速やかに申し出て、運行管理者の指示を受ける。
3 作業の打ち合わせ (1) 現場責任者は、毎作業前に必ず打ち合わせを行う。 (2) 現場責任者は、当日の配車、人員の指示を行う。 (3) 現場責任者は、ごみ・資源集積場所の新設、移動、廃止について指示を行う。 また、道路工事等による通行止めなど、発注者からの連絡事項等についても、必ず各作業員に周知・徹底を図ること。	<ul style="list-style-type: none"> ・規定の人数以下での収集業務は絶対に行わないこと。作業員の休暇は事前に調整を行い、欠員を出さないようにする。突発的な欠勤者が出ても対応できるよう、準備を怠らないこと。 ・現場責任者は、作業員の健康状態を把握すること。 ・作業員は健康状態が悪い場合には自ら申し出て、現場責任者の指示を受けること。 ・収集ルートの変更や危険又は特に注意を要するごみ・資源集積場所などについて、現場責任者の指示のもと、運転手と助手は情報の共有を図る。
4 準備体操 (1) 作業の着手前に準備運動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害及び腰痛防止のために必ず行うこと。

<p>5 始業点検</p> <p>(1) 運転手は、収集車の各部について法令で定められている運行前点検を行い、点検表に記録する。</p> <p>(2) 機械部の動作確認を行う。</p> <p>(3) 当日の作業に必要な装備品を点検する。</p> <p>(4) 携行品（日報、ルール違反シール等）を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハンドル、ブレーキ、タイヤ、エンジンその他計器類、灯火類、各装置の作動点検を行う。 ・ 汚水タンクの漏れ、プレスプレートの異音、インターロックスイッチ、緊急停止ボタンが正常に作動するか確認する。 ・ 車両に異常があった場合には、無理な使用はせず、配車の変更、予備車や代車の手配などを行い、作業に支障がない方策を講ずること。 ・ 車止め、清掃用具、消火器、飛散防止ネットなど装備品の点検を行う。 ・ 消火器は、年1回有効期限を確認する。 ・ 運転日報、免許証、車検証、収集ルート図、ルール違反シール、貼紙などの携行品を確認する。
--	--

第3章 運転者の心得

作 業 手 順	注 意 事 項
<p>1 出発</p> <p>(1) 運転手は、助手にパッカー車の機械部緊急停止など車両特性を伝える。</p> <p>(2) 運転手は、出庫準備が終わったら助手を乗車させ、交通法令を遵守し、安全運転で目的地へ向かう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の手順の情報共有を図ること。 ・ 発車の際には、指さし確認などにより安全を確認し、運転手は発車の合図をしてから収集車を発車させる。

2 走行

(1) 走行中は関係法令を遵守し、常に安全運転およびエコドライブを心がけ、無理な運転は絶対に行わない。

- ・収集車両の運行にあたっては、交通法令と運転マナーを遵守すること。

- ・運転中は携帯電話を使用せず、安全な場所を使用すること。

- ・休憩以外の喫煙はしない。

- ・スピードの出し過ぎ、無理な追い越しや割り込みはしないこと。

- ・対向車を優先して走行させる場合でも、クラクションを鳴らすなど、誤解を受けるような動作は行わない。

- ・右折、左折時には、特に歩行者、バイク、自転車などに注意する。

- ・車間距離を十分にとり、安全を確保する。

- ・ドアの開閉は、車内外の安全、特に車両の後方や側面の安全を十分確認してから行うこと。

(2) 助手も安全確認を行う。

- ・助手も走行中は周囲に注意し、特に左折時には目視により巻き込み等の安全確認を行う。

(3) 積載量、天候、路面状況に適応した運転を行うこと。

- ・降雪の場合には、無理をせず、現場責任者の指示に従うこと。

また、早めにタイヤチェーン等の滑り止めを装着すること。

(4) 運転中はできるだけ、バックによる方向転換は回避すること。

- ・収集ルートの設定にあたっては、極力バックによる方向転換を伴う設定は回避すること。

(5) 収集エリア内での走行中はラジオを消し、天候に応じてライトを点灯すること。

- ・事故回避に努めること。

第4章 収集作業

作業手順	注意事項
<p>1 収集車の誘導等</p> <p>(1) 運転手は、収集車を収集位置に停車させる。</p> <p>(2) 収集車を後退させる場合は、安全確認のため、必ず助手が降車して誘導を行うこと。</p> <p>なお、助手は誘導する際、車両の死角に入らない安全な位置で、車両が完全に停止するまで大きな声で誘導すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 停車の際に後続車両があり、収集位置に停車させると後続車両が通行できなくなる場合には、収集位置の手前で一旦停止し、先に後続車を通過させてから収集位置に停車させること。 ・ 作業を行うために収集車を停車させる場合には、必ずハザードランプを点灯させること。 なお、ハザードランプを点灯させたままの状態で行き止まりすること。 ・ 駐車又は停車して作業を行うときは、サイドブレーキを完全にかけること。特に坂道においては、車止めをする等収集車が動き出さないよう必要な措置を必ず講じること。 ・ 収集車は道路の左側端に沿って停車させ、絶対に右側停車はしないこと。 ・ 乗り降りは、収集車が完全に止まってから行うこと。 また、ドアの開閉は、歩行者、自転車、バイクその他走行車両に十分注意し、飛び乗り、飛び降りはしてはならない。 ・ 運転手は、助手の降車時の安全（後方確認・対向車線の状況）を確認し、伝えること。 ・ 誘導の停止の合図とタイミングをあらかじめ助手と決めておくこと。 ・ 運転手は、助手の誘導が必要と感じたときは、安全を最優先し、必ず誘導させること。 ・ 運転手は、誘導時は窓を開け、誘導者の声が聞こえるようにすること。

	<ul style="list-style-type: none">・ 助手は周囲の状況を確認し、運転手からよく見える位置で声、身振り等により明確な合図を行い、誘導すること。・ 助手の立ち位置は、原則左後方（運転席の反対側）とする。状況によっては、位置を変更する。（必ず運転席から確認できる位置に立ち、車両の死角には入らない。）・ 助手は、車両上部の接触に注意し、車両高も考慮して誘導すること。
--	---

2 積込作業

(1) スライドカバーを固定されるまで、両手であげる。(パッカー車)

(2) 袋の中に、手を傷つけるようなものがないか確認する。

(3) 袋を扱う時は、袋の口を持って行う。

(4) 積み込み機構を作動させ、資源を積み込む。(パッカー車)

(5) 積み込みの際、資源物の投げ込みは行わない。

(6) 集積場所の網等は、作業終了後、きちんと整理する。

(7) 使用済食用油を回収する際には、キャップがしっかり閉められていることを確認する。

・スライドカバーを上げる際に、手や指を挟まれないよう注意する。

・ガラス、刃物、注射針等の危険物が入っている場合もあるので、十分注意すること。

・ごみ袋は袋の結び目を持ち、両手いっぱい持たない。

・市民の方に、直接投入させることは絶対に避けること。

・積み込み機構を作動させているときは、手や足で資源を押したり押さえたりしないこと。また、絶対に手や足をホッパー内に入れないこと。

・飛散しそうなときはスライドカバーを閉じる。

・車両から離れる場合は、連続運転にしない。

・過積載は、道路交通法違反となるだけでなく、車両に負担がかかり、運転操作にも影響し、事故にもつながりかねないため、絶対にしないこと。

・ガラスびんや蛍光管は割れやすいため、投げ込みすることなく、丁寧に積み込むこと。

・排出量の多い集積場所や時間のかかる場所ではエンジンを切ること。(平ボディ車)

・集積場所の網等は、収集するたびに直すこと。また、集積場所ごとに網の整理の方法が異なるため、注意すること。

・使用済食用油をこぼすと、清掃に時間を要することから、回収にあたってはまずキャップが閉められていることを確認し、積み込みを行うこと。

<p>(8) 積込みの際に散乱した資源等は、必ず清掃を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、瓶、ガラスは踏み抜きにより怪我、車両のパンク等の原因となるため、路上に落とした場合は、その都度清掃用具を用いて清掃すること。自らの怪我にも注意すること。
<p>(9) 収集曜日又は排出方法が正しくない場合（発注者が指示するものを除く）には、ルール違反シールを貼り、収集は行わないことを基本とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市（発注者）が作成した、「ごみと資源の日程・出し方」に沿って収集する。ただし、資源の収集の際に異なる品目が同一の袋もしくは同一の束となって排出されている場合、もしくは、別紙「資源のルール違反物の取扱いについて」に該当する場合は、集積場所の散乱の防止及び資源化の促進の観点から可能な限り収集するものとする。 なお、プラスチックなど他の資源についても、同様の取扱いとする。
<p>(10) 積み込み作業が終了したら、各装置を走行に安全な位置に戻す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車両を移動させる際は、PTOスイッチを切ってから移動させること。（パッカー車） ・スライドカバーは収集完了後、必ず閉めること。（パッカー車）
<p>(11) 収集運搬中の積載物の落下には、十分注意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集積場所間を移動するときは、助手は徒歩または収集車の助手席に乗車すること。ステップ、荷台等に乗車して移動してはならない。 ・後方に通過待ちをしている車両がある場合には、収集車に乗車する前に相手方車両に手を挙げる、または会釈するなど挨拶をすること。 ・運転席等の上部やタンク上部に布類などを積載する場合には、ネット等により走行中の落下を防止し、積載量を遵守し、積み過ぎに注意すること。
<p>(12) 収集漏れの防止には、十分注意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・排出されているものが確認しにくい場所では、助手が必ず降車して確認すること。

<p>(13) 収集作業が完了、または積載量が一杯になってしまった場合には、中間処理施設へ運搬する。</p> <p>(14) 中間処理施設までの運搬中は、積載物の破損、飛散に注意する。</p> <p>(15) 中間処理施設へ向かう時は、飛散防止のシートなどを掛ける。(平ボディ車) また、パッカー車上部に積載の場合も同様とする。</p> <p>(16) 全ての収集が終了次第、現場責任者へ報告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別収集の場合は、前面道路が狭い等の理由により、門の内側に資源等が排出されている場合もあるので、十分注意すること。 ・市民の方から、収集作業中に声をかけられた場合には、親切丁寧に対応すること。現場で判断できない場合には、「申し訳ございませんが、お答えできかねますので、橋本台／麻溝台環境事業所へお問合せください。」と対応すること。 ・市民から収集漏れとの通報があった場合には、速やかに収集状況の確認を行うとともに、回収等必要な措置を講じること。 明らかに資源等が、収集後に排出されたものである場合には、通報者に対して当該集積場所の収集状況を説明し、理解を得るものとする。 ただし、説明しても理解が得られなかった場合には、収集漏れとして速やかに回収すること。 ・他の収集車両と連絡を取り合い、収集漏れの防止対策を徹底すること。 ・過積載には、十分注意すること。 ・運搬中は、特に蛍光管が割れてしまわないよう十分注意すること。 ・ネットを掛ける時は高所作業になるので、ヘルメットを被るなど十分注意する。 ・収集状況については、運転手と現場責任者の間でしっかりとコミュニケーションをとり、何らかの事情で収集作業が滞っている場合には、早めの対策を取る。
--	--

収集運搬業務受託事業者がごみ・資源集積場所から回収するもの	
<p>市民が日常の家庭生活で使用していたもの</p> <p>※透明又は半透明の袋（概ね45ℓ以下）に入ったもの。</p> <p>※紙類は、ひもで縛ったものが原則。紙袋でも可。</p> <p>※紙類のうち、ミックスペーパーに限り透明又は半透明の袋を可とする。</p> <p>※蛍光管は、包装材の段ボールでも可。</p> <p>※使用済食用油は、ペットボトル（なるべく500ml）に入っているもの。</p>	
資 源	<p>●びん類：ビール・日本酒などのリターナブルびん ジュース・ウィスキーなどの飲料びん コーヒー・調味料・佃煮などの食料びん</p> <p>●かん類：ジュース・ビールなどの飲料かん かん詰などの食料かん スプレーかん、カセットボンベ、塗料かん、一斗かんなど</p> <p>●金物類：鉄・アルミ・ステンレスなどで成型（テフロン・ホーロー加工製品を含む）された食器や工具、金属製の水筒など金属部分が50cm未満のもの。フライパン、やかん、炊飯器の内釜、ホットプレートのプレート（鉄板）など45ℓまでの透明または半透明の袋に入る台所用金物（50cm以上でも可）、針金ハンガー、金属製の傘の骨組み、電気コードなど。</p> <p>●布類：古着（衣服、スーツ、着物、革製衣類、ダウンジャケット）、バック（キャスター付きは除く）、ベルト、帽子、タオル、シーツ、カーテンなど</p> <p>●蛍光管</p> <p>●使用済食用油</p> <p>●紙類：新聞、段ボール、紙パック、ミックスペーパー（雑誌・雑がみ、紙製容器包装、レシート、感熱紙、シュレッダーで裁断した紙等）</p>
プラスチック	<p>●プラ製容器包装</p> <p>●製品プラスチック（最長辺が50cm未満の全てプラスチックでできた製品）</p>
ペットボトル 有害ごみ	<p>●ペットボトル</p> <p>●有害ごみ：電池類（ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池、鉛電池及び小型充電式電池などを含む製品（長辺30cm・直径10cm未満））、乾電池、ボタン電池、コイン電池、プラスチック製ライター、水銀体温計、水銀温度計、水銀血圧計</p>

収集運搬業務受託事業者がごみ・資源集積場所から回収しないもの	
一般ごみ	<p>・台所ごみ</p> <p>・プラスチック製品（50cm以上のものは粗大ごみ。最長辺が50cm未満の全てプラスチックでできた製品は上記のプラスチックの区分で収集のこと）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・木の枝、雑草 ・ぬいぐるみ、座布団など ・くつ、スリッパなどはきもの ・ハンガー（針金ハンガー及びプラマークがついているものを除く） ・ビデオテープ、カセットテープ、レコードなど ・時計、ドライヤーなどの電気製品 ・湯のみ、きゅうす、お皿などのせともの、植木鉢、コップ、ガラス食器、鏡、乳白色のびん、電球、包丁、針、ハサミ、カミソリなど（割れたものも含む） <p>※ここに書かれているもののうち、プラスチックに該当するものは除く。</p>
事業系ごみ	明らかに事業系一般廃棄物、産業廃棄物と分かるもの。
粗大ごみ	家具、家電製品、暖房器具、自転車など主に大型（金属製・金属製以外ともに50cm以上、電気製品は30cm以上）のごみ 具体的な品目は「ごみと資源の日程・出し方」を参照のこと。
家電4品	エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機・衣類乾燥機
市では処理できないもの	<p>（主な品目）</p> <p>自動車・バイクの部品、バッテリー、コンクリート製品、土（園芸用土）・砂・石、灯油・オイルなど、農薬・塗料など、消火器、スプレー缶・カセットボンベの中身の入っているもの、LPガス容器、ピアノ、つけもの石（コンクリート製を除く）、エンジン・モーター類</p>

※「事業系ごみ、粗大ごみ、家電4品、市では処理できないもの」が出ていた場合は、当日もしくは翌日に、場所及び品目を連絡する。なお、家電4品以外は、ルール違反シールを貼付する。

※使用済小型家電は、公共施設等のボックスでも回収を行っている。

第5章 搬入作業

作業手順	注意事項
<p>（1）中間処理施設への搬入経路は、指定された経路を守ること。</p> <p>（2）中間処理施設では、施設の担当者の指示に従うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中間処理施設の建設経緯等を踏まえ、搬入経路は決められた経路とする。 ・中間処理施設周辺では、路上駐車による順番待ち、または時間調整をしてはならない。 ・中間処理施設内では、各品目の保管場所以外の場所には、むやみに立入らないこと。 ・中間処理施設内では、ヘルメットを着用する。 ・車両の誘導を行う助手等は、運転手の死角とならない安全な位置で誘導を行うこと。

<p>(3) 中間処理施設が実施する搬入時の計量を受ける。</p> <p>(4) 搬入した資源を品目毎に中間処理施設が指定する場所に荷降ろしする。</p> <p>(5) P T OスイッチをONにして、テールゲートを上げて資源を排出する。(パッカー車)</p> <p>(6) テールゲートを降ろす。(パッカー車)</p> <p>(7) P T OスイッチをOFFにし、発進する。(パッカー車)</p> <p>(8) コンテナ等を荷台から降ろして搬入する。(平ボディ車)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発車の際には、運転手は施設内の作業員に発車の合図をしてから発車させること。 ・計量台に静かにゆっくりと乗り、完全に停車して、エンジンを切ってから計量すること。 ・計量は、搬入時に総重量を計量し、荷降ろし後に再度空荷の状態で計量を行う。 ・中間処理施設内では、常に徐行すること。 ・荷降ろしの際に資源が散乱したり、特にびん類は割れたりしないよう丁寧に扱うこと。 ・荷卸し時にエンジンを停止する。(平ボディ車) ・荷降ろし作業において、踏抜き防止の観点から車両からの飛び降りはしてはならない。 ・テールゲートの下に入る際は、必ず安全棒をかけてエンジンを停止させること。 ・天井の高さに注意すること。 ・ダンプ動作や、テールゲートを下げる際は必ず誘導者の安全確認、意思表示に声を出すこと。 ・テールゲートが降り、完全にロックがかかっているか操作盤の表示ランプで確認する。 ・走行しながらテールゲートは降ろさないこと。 ・コンテナ等の積み降ろし作業時は、フォークリフト、クレーン等の操作者の死角とならない安全な位置で誘導すること。 また、誘導等を要しない時は、操作者の死角とならない安全な場所で待機すること。 ・フォークリフト、クレーン等の操作は、車両系
--	---

<p>(9) 空のコンテナ等を積載する。 (平ボディ車：施設、品目による)</p> <p>(10) 中間処理施設が実施する荷降ろし後の計量を受ける。</p> <p>(11) 計量伝票を受け取る。</p> <p>(12) 出庫</p>	<p>建設機械の技能講習所持者に作業をしてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びん専用コンテナ（収集箱）などの積み込みを行う。 ・箱の落下や転倒に注意する。 ・空荷の状態で、計量台に静かにゆっくりと乗り、完全に停車して、エンジンを切ってから計量すること。 ・搬入量が記載された計量伝票を受け取る。 ・計量伝票に印字されている内容に誤りがないか確認する。 ・中間処理施設を出発する際は、必ず一旦停止し、周囲の安全を確認してから出庫すること。
--	--

第6章 帰庫等

作 業 手 順	注 意 事 項
<p>(1) 終業点検をする。</p> <p>(2) 終業点呼を受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異常がある場合は、現場責任者に報告し、対応する。 ・特に雨天時は、汚水タンクの水を抜く。 ・日報に運転状況及び必要事項を記入し、計量伝票とともに事務所に提出する。

第7章 荒天時の対応

作 業 手 順	注 意 事 項
<p>(1) 事前準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・降雪が予測される場合には、前日にタイヤチェーンを装着するなどの準備を行うこと。 ・雨具、スタッドレスタイヤ、タイヤチェーン、ス

	<p>コップ、防水手袋等の準備を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降雪があった場合には、車両基地から主要幹線道路までの走行ルートを確認する。 ・雨具など適切に装着し、健康を損ねる事無く快適に収集業務に従事できるよう努める。
(2) 荒天時の作業	<ul style="list-style-type: none"> ・荒天時または荒天が想定されることに伴い、発注者から待機や収集中止の指示があった場合には、速やかに対応すること。 ・収集作業中は、足元が滑りやすいので注意すること。 ・後退時の誘導は、通常以上に注意をもって誘導すること。 ・収集作業中に天候が悪化してきたときには、無理をすることなく臨機応変な対応を心がけること。
(3) 降雨・降雪時の走行	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲から目立つよう、ライトを点灯させて走行すること。 ・降り始めはスリップしやすいので、速度を落とすなど、運転操作に注意すること。 ・台風や強風時におけるドアの開閉には、十分注意すること。 ・水たまり等を通過するときには、歩行者に水などがかからないよう注意して走行すること。 ・冠水している場所に不用意に進入しないこと。

第8章 その他の注意事項

作 業 手 順	注 意 事 項
<p>1 事故</p> <p>作業中に事故が発生した場合には、すぐに事故現場の安全を確保し、消防署、警察署及び現場責任者に連絡をする。</p> <p>連絡を受けた現場責任者は、速やかに発注者及び受注者に第1報の報告を行うとともに現場に急行し、その後の状況を逐次報告する。</p> <p>加害事故発生時は、現場責任者は発注者の事務所に赴き、確認事項を報告する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人身事故の場合、運転手は直ちに消防署に救急搬送の要請及び警察署へ事故発生を通報し、その後現場責任者に連絡し、指示を仰ぐこと。 ・ 人身事故の場合には、報道機関に情報提供する必要が生じるため、現場責任者は限られた時間の中で、速やかな状況確認を行うとともに、発注者と連絡を密にした対応をすること。 ・ 物損事故の場合、運転手は直ちに警察署へ事故発生を通報し、その後現場責任者に連絡し、指示を仰ぐこと。 ・ 被害事故であっても、運転手は直ちに警察署へ事故発生を通報し、その後現場責任者に連絡し、指示を仰ぐこと。 ・ 人身事故、物損事故ともに、速やかに事故報告書を提出すること。 その場合、報告書には事故現場見取図、写真を添付すること。
<p>2 車両の故障</p> <p>作業中における車両故障の場合は、安全な場所に車を止めた後、現場責任者に連絡し、業務の継続に支障のないよう必要な措置を講じる。</p> <p>連絡を受けた現場責任者は、速やかに代車の配車等の対応措置を講じるとともに、回収時刻が遅れることが想定される場合には、発注者の了承を得たうえで、搬入先中間処理施設に連絡する。</p> <p>必要に応じて、現場責任者は発注者の事務所に赴き、確認事項を報告する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両火災が発生した場合は、運転手は周囲に危険がない場所に車を止め、直ちに消防署に火災発生を通報し、その後現場責任者の指示を仰ぐこと。 ・ 火災事故の場合には、報道機関に情報提供する必要が生じるため、現場責任者は限られた時間の中で、速やかな状況確認を行うとともに、発注者と連絡を密にした対応をすること。 ・ 火災を伴わない車両故障の場合には、運転手は周囲に危険がない場所に車両を停車させ、現場責任者の指示を仰ぐこと。

	<ul style="list-style-type: none"> ・火災を伴う場合には、速やかに事故報告書を提出すること。
3 苦情 市民から、発注者に苦情が入った場合には、現場責任者は該当する現場作業員に事実関係を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・速やかに、苦情報告書を提出すること。 ・苦情内容を社内全体に周知すると共に、再発の防止に努めること。
4 その他 勤務時間中は、市が行うべき業務に従事しているという意識を常に持ち、市民からの苦情に繋がる行為は一切行わない。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業中及び収集車の車内では、禁煙とする。 ・走行中の携帯電話の通話は、禁止する。 使用する際は、安全な場所に車両を停車して通話すること。 ・コンビニ等の駐車場内における収集作業中の休憩は、長時間の利用を避け、来客者や周辺住民に配慮すること。 なお、休憩はなるべく会社に戻るなどして取ること。 また、買い物などによる短時間の駐車でも、エンジンはかけたままにしないこと。 ・いかなる場面でも、周囲の状況に対する配慮を怠らないこと。